

2024(令和6)年は西区制80周年

知ってる?

# 西区のむかし

西区文化協会は1981(昭和56)年の創立。創作・芸能・茶道部門に分かれて活動しており、誰でも加入できます。「にしぶんか」は創立から5年後に発刊されました。西区に密着した文化と歴史、地域に隠された趣あるエピソードを交えて、温故知新を語り継ぐ広報誌です。地域振興課(区役所4階48番窓口)でお渡ししています。



2024(令和6)年に西区は80周年を迎えました。これを記念して、西区文化協会が発行している広報誌「にしぶんか」から、これまでの西区の歴史をひも解いていきます。ぜひ西区のむかしに思いをはせてみてください。

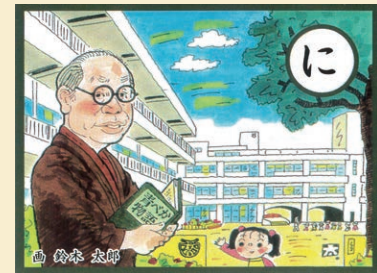
## 第11回

やま もとしゅうご ろう  
山本周五郎

……にしぶんか No.36 から

山本周五郎(1903~1967年)は山梨県北都留郡(現在の<sup>さとむ</sup>大月市)に生まれ、本名は清水三十六といいました。一家は豪雨による水難にあい山梨を離れ東京へ、そこでも水害に遭遇して山梨で馴染みの生糸を扱う商人の多かった横浜へと移ります。そして戸部小学校に入学し、西前小学校に編入しました。小学生のころから文章は巧みでした。小学校卒業後、周五郎は「山本周五郎」という屋号の質店に<sup>でっち</sup>丁稚奉公に出ました。この質店の主人の洒落齋は周五郎に勉学<sup>しやくさい</sup>の場を与えました。ペンネームの山本周五郎はその恩を忘れないという理由からです。関東大震災後に一時的に避難した神戸での想を得て書いた短編「須磨寺附近」が文壇へのデビュー作となりました。代表作の一つに「さぶ」があります。作者は冒頭で、読者を物語に引き込むことに腐心します。さぶの衣装の細かな描写で商家の丁稚であることを示唆します。また多くの作品の視線は、日々の生活に喘ぐ下層の人々に向けられています。

山本周五郎の作品は「青べか物語」「季節のない街」「<sup>もみのき</sup>樅ノ木は残った」「赤ひげ診療譚」など多数。



平成西区かるた(西区文化協会 西区制60周年記念事業)  
絵 鈴木太郎

問 西区文化協会事務局(地域振興課内)

Tel 320-8392 fax 322-5063